

2022年作成

読み書き計算に困難が ある子どもへの指導 ～教材づくりのヒント・例③～

愛媛大学名誉教授(教育学部)
(兼)愛媛県立子ども療育センター

長尾秀夫

全体の内容

I. 小学校国語 編

II. 小学校算数 編

III. 発達性読み書き障害が
ある子の読み、書き、
ローマ字・英語 編

Ⅲ. 発達性読み書き障害が ある子の読み、書き、 ローマ字・英語 編

文字の読み書きの支援案

(ヒントカード作り)

- | | |
|-------------------|-----|
| <u>1. ひらがなを読む</u> | —5 |
| 2. ひらがなを書く | —26 |
| 3. 単語・語彙を増やす | —31 |
| 4. 漢字を書く | —38 |
| 5. 作文 | —44 |
| 6. 文章読解 | —52 |
| 7. ローマ字 | —67 |
| 8. 英語 | —73 |

はじめに

- ・かな文字は、

 - 1文字ー1音節対応の**直音**(清音・濁音・半濁音)および撥音と、

 - 1文字ー1音節対応でない**特殊音節**(拗音・促音・長音など)に分けることができる。

- ・ひらがなの**読み**速度と正答数は、**小学4年**時まで発達してゆく。しかし、ひらがなの書きについて、どの音節をどの学年で習得するのか明らかでない。

「読み」指導

I . 解読指導 (かな文字の一字ずつ音読)

かな文字一字ずつを読む。

II . 語彙指導 (かな文字のまとまりを音読)

かな文字のまとまりの単語を意識して読む。

例文を作る。

* 遊びとして、絵日記などを書く。

読み(文字に入る前):就学前

- ・聞く(入力)

- 動作化**～読み聞かせ、身振り、劇・舞台など

- 絵や図のフラッシュカードを見せる(**視覚化**、見える化)

- ・復唱して話す(出力)

- ・自分で考えて話す(出力)

- 動作化**～劇で演ずる

- 絵や図のフラッシュカードを描く、選ぶ、など(**視覚化**)

読み(文字を読み始め):就学前

1)清音

—親密度の高い—文字のつく言葉探し

(例)「あ」・・・「あめ」

—同じ—文字が最初につく言葉探し

(例)「いぬ」・・・「いし」

—同じ—文字が最後につく言葉探し

(例)「うま」・・・「まり」　　～～これが“しりとり”

* 遊びとして、

○かるたとり、○文字探し、○文字並べ(積木)

読み(文字を読み始め):就学前

2)濁音・半濁音

—親密度の高い一文字のつく言葉探し

(例)「ばす」・・・「ろ**ば**」、「ぱん」・・・「ら**っ**ぱ」

—同じ一文字が最初につく言葉探し

(例)「どう」・・・「**ど**ろ」、「ぴん」・・・「**ぴ**んく」

—同じ一文字が最後につく言葉探し

(例)「りんご」・・・「**ご**りら」、「し**っ**ぽ」・・・「**ぽ**っと」

* 遊びとして、

○かるたとり、○文字探し、○文字並べ(積木)、
○3択問題、○間違い探し、○仲間分け

読み(文字を読み始め):就学前

2-1)拗音～清音のやり方に加え、遊びは同じ

—親密度の高い拗音のつく言葉探し

(例)「しゃ」・・・「き **しゃ**」

○ ○•

* **暗号**をつける(例)

直音(清音、濁音、半濁音) ○

拗音 ○•

促音 ▲

撥音 □

長音 (○)

読み(文字を読み始め):就学前

2-2)拗音～清音のやり方に加え、遊びは同じ

—親密度の高い拗音のつく言葉探し

(例)「しゃ」・・・「き **しゃ**」

机 合わせ

* **動作化**をする。(例)両手で机をたたく

直音(清音、濁音、半濁音)

両手で机をたたく

拗音

両手を**打ち合わせる**

促音

両手を**グーする**

長音

両手で机をたたく

撥音

両手で机をたたく

読み(文字を読み始め):就学前

3-1) 促音、撥音、長音～清音のやり方に加え、
一親密度の高い拗音のつく言葉探し

(例)「らっぱ」、「りんご」、「がっこう」

○ ▲ ○ ○ □ ○ ○ ▲ ○ (○)

* 暗号をつける(例)

直音(清音、濁音、半濁音)	○
拗音	○●
促音	▲
長音	(○)
撥音	□

読み(文字を読み始め):就学前

3-2)促音、撥音、長音～清音のやり方に加え、
一親密度の高い拗音のつく言葉探し

(例)「らっぱ」、「りんご」、「がっこう」

机 グー 机、机 机 机、机 グー 机 机

* **動作化**をする。(例)両手で机をたたく

直音(清音、濁音、半濁音)

両手で机をたたく

拗音

両手を**打ち合わせる**

促音

両手を**グーする**

長音

両手で机をたたく

撥音

両手で机をたたく

1年生のひらがな読み

直音：以下を合わせて、71文字

清音文字(あ～を)＋撥音(ん) : 46文字

濁音文字(が～ぼ) : 20文字

半濁音文字(ぱ～ぽ) : 5文字

拗音文字 (きゃ～りょ) : 36文字









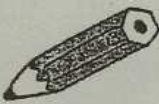

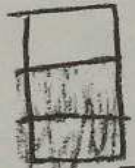







以上の合計 : 107文字

*** 上記のそれぞれの五十音表を作ろう。**

(子どもの知っている言葉と結び付けて)

一般教材

自作の表

					
スイカ	クリ	ウシ	スイカ	クモ	ウサギ
			す	く	う
					
セミ	ケイト	エンピツ	セミ	ケシゴム	エホン
			せ	け	え
					
ソバ	コマ	オニ	ソバ	コマ	オニ

ひらかなをこえにだしてよみましょう。

	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
	○	り	○	み	ひ	に	ち	し	き	い
	○	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
	○	れ	○	め	へ	ね	て	せ	け	え
ん	を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

音韻分解

1. ひらがなの音韻分解

①フラッシュカードを作り、「**視覚化**」する。

音記号、暗号を作り、音節を視覚的記号で表す。その他におはじきを置く、指差しする、などもあり。

②「**動作化**」する。

発音に合わせて両手でパー、拍手、グーなどを
する。

記号と音との対応

- ・DDの子は友達や先生の名前が思い出せないことがある。
- ・読む場合は文字記号から音を想起(デコーディング: 音声化)できない。
- 音節認識を刺激するにはしりとり遊びが良い。
- 文字学習で絵付の五十音表は効果がある
- 平仮名が読めない時には、子どもに合わせて作成したフラッシュカードで練習する。
～毎回、目に見える成果を確認する。

1年生のひらがな読み

1学期：直音（71文字）を読む、書く。

子どもに合ったフラッシュカードを使う。

動作化も併用する。

2学期：拗音、促音、長音（特殊音節）、撥音を読む、書く。やり方は上記と同じ。

* 遊びとして、詩の暗唱、拗音集め、カルタ作り、単語カード作りなど。

3学期：その他の特殊音節を読む、書く。

やり方は上記と同じ。

* 遊びとして、言葉集め、特殊音節入り文づくり

1. ひらがなの読み

- ・ひらがなの読みの**到達点**を知る。
～**五十音表**で読めるものに**丸**をつける。
- ・子どもが**知っていることば**、**よく使うことば**で未だ読めないひらがな1文字について学習する。
1時間では2~3文字までにおさえる。
- ・毎回、**前回の復習**をして確認する。覚えていたら透明な宝箱に入れる。
- ・**数回**貯まれば、すでに読める字と一緒にまぜて、読みを確認し、読めると**五十音表**に**丸**をつける。

授業の基本枠

上段	<u>学びのポイント</u> ・「きゃ」を読む。
中段	<u>展開</u> ①「きゃ」がつく言葉を集める。 ②平仮名に書いて、フラッシュカードを作り、読ませる。 ③「きゃ」のつく単語を使った文章を作る。 ④書いた文章を読ませる。 ⑤五十音表に○をつける。
下段	<u>確認問題</u> (1~3問) ・「きゃ」「きゃべつ」「おきゃくさん」のフラッシュカードを読ませ、ほめる。

② 音読訓練用ひらがなフラッシュカード(例)

(表)

きや

(裏)

きやべつ

(絵、写真)

③ 「きゃ」のつく単語の文章

おかあさんが きゃべつを かいました。

④ 「きゃ」のつく文章を読む

⑤

りや	みや	ひや	にや	ちや	しや	きや
りゆ	みゆ	ひゆ	にゆ	ちゆ	しゆ	きゆ
りよ	みよ	ひよ	によ	ちよ	しよ	きよ
	ぴや	びや			じや	ぎや
	ぴゆ	びゆ			じゆ	ぎゆ
	ぴよ	びよ			じよ	ぎよ

ひらかなをこえにだしてよみましょう。

文字の読み書きの支援案

(ヒントカード作り)

- | | |
|-------------------|-----|
| 1. ひらがなを読む | —5 |
| <u>2. ひらがなを書く</u> | —26 |
| 3. 単語・語彙を増やす | —31 |
| 4. 漢字を書く | —38 |
| 5. 作文 | —44 |
| 6. 文章読解 | —52 |
| 7. ローマ字 | —67 |
| 8. 英語 | —73 |

ひらがなの書き指導

(竹下・若宮、他、Jpn.J.Learn.Disabilit. 26:80、2017の抜粋)

五十音表の視写:

T(指導者)が一字を発音し(音声化)、子どもも真似して発音して文字を写す。

単語の場合は、Tが一字ずつ発音し、拍打ちをして、子どもも真似をして、声に出して文字を書く。始点と終点を意識して書く。「なぞる」～「見て書く」～「見ずに書く」の順に進める。

五十音表の聴写:

Tが発音した文字を、音声を真似して書く。間違えば、修正方策を言いながら書く。

1年生の聴写課題(2G)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
えんそく	かぜ	しんかんせん	ごはん	きつね	どんぶり	おに	あいせい	ひんぎ	くま

いったことばをかきましょう。2G (なまえ: _____)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

○課題の判定

・課題は、

1年生では、10単語(33音節)

2年生では、11単語特殊音節15音節で判定する。

「10%に至らない場合は**困難**がある。」

1年生では、**31**点(満点33点中)

2年生では、**12**点(満点15点中)

参考:5%では、1年生30点、2年生11点。

注意:読み書きに困難があると判断するには、知能検査、読み検査、視写、自書、カタカナ・漢字なども合わせて**総合的に解釈**する。

文字の読み書きの支援案

(ヒントカード作り)

- | | |
|---------------------|-----|
| 1. ひらがなを読む | —5 |
| 2. ひらがなを書く | —26 |
| <u>3. 単語・語彙を増やす</u> | —31 |
| 4. 漢字を書く | —38 |
| 5. 作文 | —44 |
| 6. 文章読解 | —52 |
| 7. ローマ字 | —67 |
| 8. 英語 | —73 |

3. 新しい単語への対応

- ・上手に読むには話し言葉の語彙を増やしておく
- ・語彙を増やすには、単語を自分の経験と結びつけて考えられるようにしておく。
- ・教える単語は、子どもの経験から理解できる単語、生活に使える単語、役立つ単語を選ぶ。
- ・単語をカテゴリーに分けて覚えると、意味理解につながる。
 - 場所、動物、感情などを表す単語
 - 意味が反対の単語、など
- ・カテゴリー化で話し合うことは知識を活性化する。

語彙力をつける

それぞれが**使っている言葉**から始め、**興味関心**がある分野で言葉を増やす。

1. 話した言葉を書いてみよう。
2. **似た言葉** (類義語) を集めよう。
～名前、気持ち、動き、様子、その他
3. **反対の意味の言葉** (対義語) を探そう。
4. 漢字の**熟語**を作ろう。(類義語、対義語)
5. 三字熟語、四字熟語を探そう。
6. ことわざ、慣用句、故事成語に挑戦しよう。

語彙を増やす

1. **似た言葉(類義語)**を集めよう。
～名前、気持ち、動き、様子、その他
2. **反対の意味の言葉(対義語)**を探そう。

1と2の言葉について、読み書きを学習する。

①**動作化**:仲間を分類し、名前を付けて**口頭**で発表する。答えを**ジェスチャー**で示す。

②**カードで視覚化**:仲間を分類し、名前を**書いて**発表する。答えの**選択肢**を選ぶ。

語彙を増やす 2

- ・子どもの日常生活の中で出会った単語を覚え、
一般的知識を習得する。
- ・語彙の指導は子どもが多くの例を知り、たくさん
話し合う。また、単語の説明とともに絵や図で示
す。
- ・子どもの語彙を増やすには、子どもの興味（スポ
ーツ、ペット、車、宇宙、など）を機動力とする。
- ・子どもの“経験に伴って出てきた言葉に間違った
答えなどない”という姿勢で、一緒に話し合う。

擬音語・擬態語

擬音語(どんな音)・擬態語(どんな場面)?

動作化: **ジェスチャー**、**発声**でやってみる。

(例) わんわん、ひゅうひゅう、にゃんにゃん
ぽろぽろ、つるつる、もぐもぐ

フラッシュカード: 音・場面を表現する言葉を**カード**
に書いて、発表する。

(例) わん()ん、にゃん〇〇〇; (カ)動物
ぽろぽ〇、つる〇る、も〇もぐ; (カ)食べる

反対語(対義語)

反対語～あべこべカルタ

動作化: ジェスチャーでやってみる。その反対語を当てる。

(例) 高いー低い、強いー弱い、暑いー寒い

フラッシュカード: 単語を書いたカードを示し、その反対語を発表する、書く、選ぶ。

(例) 同上

文字の読み書きの支援案

(ヒントカード作り)

- | | |
|-----------------|-----|
| 1. ひらがなを読む | —5 |
| 2. ひらがなを書く | —26 |
| 3. 単語・語彙を増やす | —31 |
| <u>4. 漢字を書く</u> | —38 |
| 5. 作文 | —44 |
| 6. 文章読解 | —52 |
| 7. ローマ字 | —67 |
| 8. 英語 | —73 |

4. 漢字を覚える

ひらがな同様に、読める・書ける漢字の**到達点**を知る。～学年別漢字配当表も参考に。

漢字の読み：

学習は、子どもが**親しみ**のある、会話や作文で**使う**言葉の漢字から始める。

漢字の書き：

子どもの記憶力により、

同じ漢字**1字**を、口で**唱えながら**、**5~8回**繰り返し書く。**熟語**と共に覚えると使える。(例)

・・・基本的な学習法。その子に合わせて！

授業(学習)の基本枠

上 段	「湖」、湖面の湖を書く。 <u>学びのポイント</u> (親密度・子どものやり方)
中 段	<u>授業の展開</u> ①1枚目:覚える漢字の読みをひらかなで書く。 ②2枚目:唱える言葉を書く。(部首も入れ) ③3枚目:漢字1字を5~8回唱えながら書く。 横に、熟語を唱えて3回書く。 ~「湖」のつく熟語を出し合い、書く。 ④4枚目:まとめで唱えて1回書く、 間違えばさらに3回唱えて書く。 ⑤5枚目:次回の授業で初めに1回復習する。
下 段	<u>確認問題</u> (1~3問) ・例:「湖」、湖面等数問を唱えて1回書く、間違えば、さらに3回唱えて書く。

漢字を覚える(例)

上段
の
学び

<覚え方>

世	湖
一 (よこ)	シ (たて)
え	え
川 (よこ)	古 (たて)
と	と
し (よこ)	月 (たて)

<熟語・読み>

せ	せ	こ	こ
か	め		
い	ん		

③ <翌日・次回の確認>

世	世	湖	湖
界	面		

(別の文字にも使えろ)

次回
の
復習

② <確認>

世	世	湖	湖
界	面		
世			
世			
世			

下段
の
確認

<初めて>① 7~8日

世	世	湖	湖
界	世	面	湖
世	世	湖	湖
界	世	面	湖
世	世	湖	湖
界	世	面	湖
世	世	湖	湖
界	世	面	湖

中段
の
展開

漢字を覚える(例)

② <覚え方>

	世	湖
	一 (よこ)	一 (たて)
	二 (よこ)	二 (たて)
	三 (よこ)	三 (たて)
	四 (よこ)	四 (たて)
	五 (よこ)	五 (たて)

① <熟語・読み>

せ	せ	こ	こ
か	め		
い	ん		

⑤ <翌日・次回の確認>

世	世	湖	湖
界	面		

(別の文字にも使えます)

④ <確認>

世	世	湖	湖
界	面		
	世		
	世		

③ <初めて> ① 7~8行

世	世	湖	湖	1
界	世	面	湖	2
世	世	湖	湖	3
界	世	面	湖	4
世	世	湖	湖	5
界	世	面	湖	6
	世		湖	7
	世		湖	8

漢字の覚え方、書き順(例)

					発
		発	フ	ノ 左 なめ せめ	フ な な め か ぎ
		発	マ	し 右 つ ぱり	、 左 てん
			マ		、 右 てん
			マ		、 右 な め せん
			マ		、 右 てん
			マ		一 よ こ
			マ		一 よ こ

文字の読み書きの支援案

(ヒントカード作り)

- | | |
|--------------|-----|
| 1. ひらがなを読む | —5 |
| 2. ひらがなを書く | —26 |
| 3. 単語・語彙を増やす | —31 |
| 4. 漢字を書く | —38 |
| <u>5. 作文</u> | —44 |
| 6. 文章読解 | —52 |
| 7. ローマ字 | —67 |
| 8. 英語 | —73 |

5. 作文をする(書く)

- ・はじめに、楽しかったこと、今日したことなどを自由に話させる。
- ・「では、先生が質問するので答えてね」と言って、いつ、どこで、だれが、なにを、どうした、なぜ、きもち、を順番に聞いて、それを話させる。
- ・「いまのお話を書くので、もう一度順番に話してください」と言う。最初は先生が、慣れると子どもが枠・短冊に書く。
- ・書いたものを子どもが続けて読む。
- ・「よく読めました。原稿用紙に書いてください」
- ・書けた作文を読んでみましょう。

授業の基本枠

上段	<u>学びのポイント</u> ・作文を書く。(基本形の枠を使って)
中段	<u>展開</u> ①書きたいことを話す。 ②いつ、どこで、と順番に聞く。 ③話したことを書く(子どもが書く?) ④書いた文字を続けて読む。 ⑤原稿用紙に言いながら清書する。 ⑥清書したものを読む。
下段	<u>確認</u> 問題(1問) ・書きたい別のことを話す。 ・基本枠を使って書き、原稿用紙に清書し、読む。

5W1Hで作文を書こう (例)

③

しゅもんに答えよう。

いつ 「:」 「きのう

どこで 「:」 「がっこうで

だれが(は) 「:」 「ぼくは

なにを 「:」 「えんそくのえを

どうした。 「:」 「クレヨンで かきました。

なぜ 「:」 「せんせいが ほめてくれて

きもち。 「:」 「うれしかったです。

つなぎ合わせて、文を作ろう。

きのう がっこうで
ぼくは えんそくの えを
クレヨンで かきました。
せんせいが ほめてくれて
うれしかったです。

(マス目付き
原稿用紙から)

⑤

つなぎ合わせて、文を作ろう。

					う	せ	ク	ぼ	き
					れ	ん	レ	く	の
					し	せ	ヨ	は	う
					か	い	ン		
					っ	が	で	え	が
					た			ん	っ
					で	ほ	か	そ	こ
					す	め	き	く	う
					。	て	ま	の	で
						く	し		
						れ	た	え	
						て	。	を	

初めての作文

1. 子どもの話を作文に**代筆**する。
2. 絵カードを使って話をさせ、**絵作文**を作る。
3. 「だれが どうした」

「**だれが なにを どうした**」の作文を**手本**を示して作る。

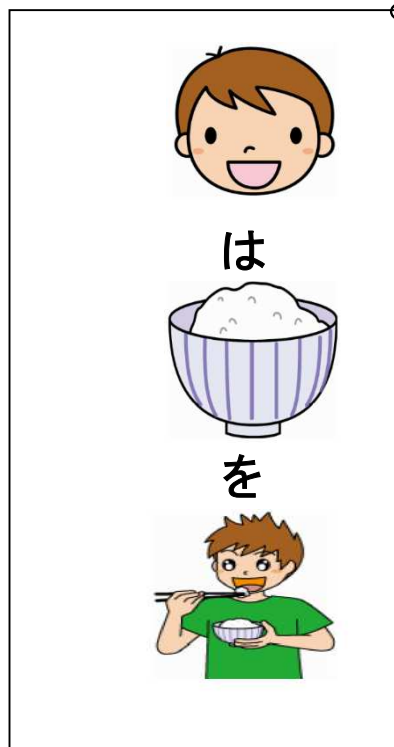
①話を**聞く**

②「だれが」「どうした」の**下**に子どもの言葉を書く。

③書いたものを**読ませる**。

4. **5W1H**の作文に発展してゆく。

絵で作文を書こう (例)



話を聞いて、絵で文を作ろう

どうした..



なにを..

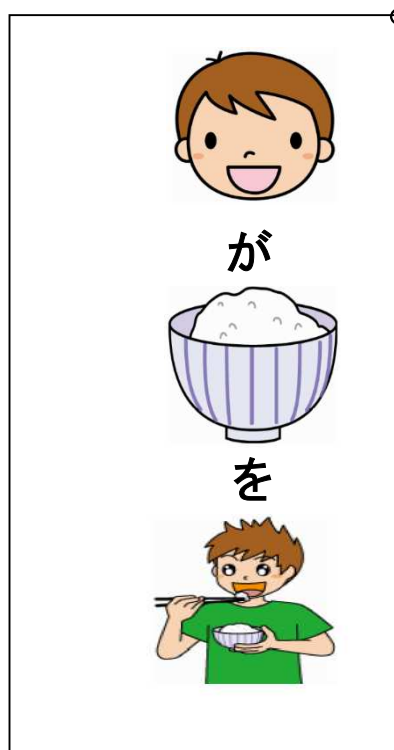


だれが..



口頭
で聞
く

絵で作文を書こう (例)



話を聞いて、絵で文を作ろう



どうした..

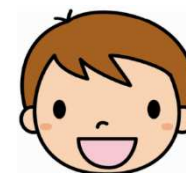
たべた



なにを

..

ごはんを



だれが

..

ぼくが

文字
で書
く

文字の読み書きの支援案

(ヒントカード作り)

- | | |
|----------------|-----|
| 1. ひらがなを読む | —5 |
| 2. ひらがなを書く | —26 |
| 3. 単語・語彙を増やす | —31 |
| 4. 漢字を書く | —38 |
| 5. 作文 | —44 |
| <u>6. 文章読解</u> | —52 |
| 7. ローマ字 | —67 |
| 8. 英語 | —73 |

6. 文章の読解

- ・子どもに合った**短い、わかりやすい**文章から始める。(ひらがな、分かち書きなども考慮)
- ・子どもが**好きな本**、絵本などを活用する。
- ・**音読**から入り、子どものペースで読ませ、はじめは修正しない。わからない文字があれば読み方を教えることも事前に伝えておく。音読後によく読めた部分を具体的に**褒める**。
- ・子どもの**指導に合った文章**が選べたら、その全体を**音読**させ、内容を話し合ったあと、**一文**ずつ内容を確認する。

授業(学習)の基本枠

上段	文章読解： 学びの ポイント 「いつ、どこで、だれが、なにを、どうした」の基本形を探す。
中段	<u>授業の展開</u> ①文章を音読する。 ②大切な言葉に線を引く、丸をつける。 ③一文ごとに基本形を探し、不足(省略)部分を補う。 (・必要なら、基本形の順番に並び替える。) ④自分の言葉で説明する。身振り、図を描く。
下段	確認 問題(1問) ・文章題の例題を基本形に当てはめる。線を引く、丸をつける、図を描く。

①

「じゃあ、空き地で待ってるぞ。」

そう言つと、やまとは、ゆうまの返事も聞かないで、教室を飛び出していった。

「どうしよう。」

今朝、ゆうまは、そうたとキャッチボールをする約束をしていた。やまともそうたも、どちらかという自分勝手に、あまり人のことを考えない。少し気弱なゆうまは、やまとやそうたに強く言われると、いやと言えない。おまけに、やまとそうたは仲が悪いので、絶対いっしょには遊ばないのだ。

いい考えがうかばないので、ゆうまは、また大きなため息をついて、とほとほと家に帰った。

（修正ぐもん出版）

質問一 ゆうまが、「どうしよう。」と思ったのは、どうしてですか？

答え：

質問二 三人は、どんな子ですか？

答え：

質問三 ゆうまが、傍線のように元気がないのはどうしてですか？

答え：

③

例文…新五

「氏名」

やまとが

「じゃあ、空き地で待ってるぞ。」

そう言つと、やまとは、ゆうまの返事も聞かないで、教室を飛び出していった。

「どうしよう。」

②

今朝、ゆうまは、そつたとキャッチボールをする約束をしていた。やまともそつたも、どちらかといつと自分勝手に、あまり人のことを考えない。少し気弱なゆうまは、やまとやそつたに強く言われると、いやと言えない。おまけに、やまととそつたは仲が悪いので、絶対いっしょには遊ばないのだ。

いい考えがうかばないので、ゆうまは、また大きなため息をついて、とほとほと家に帰った。

(修正くもん出版)

質問一 ゆうまが、「どうしよう。」と思ったのは、どうしてですか？

答え…

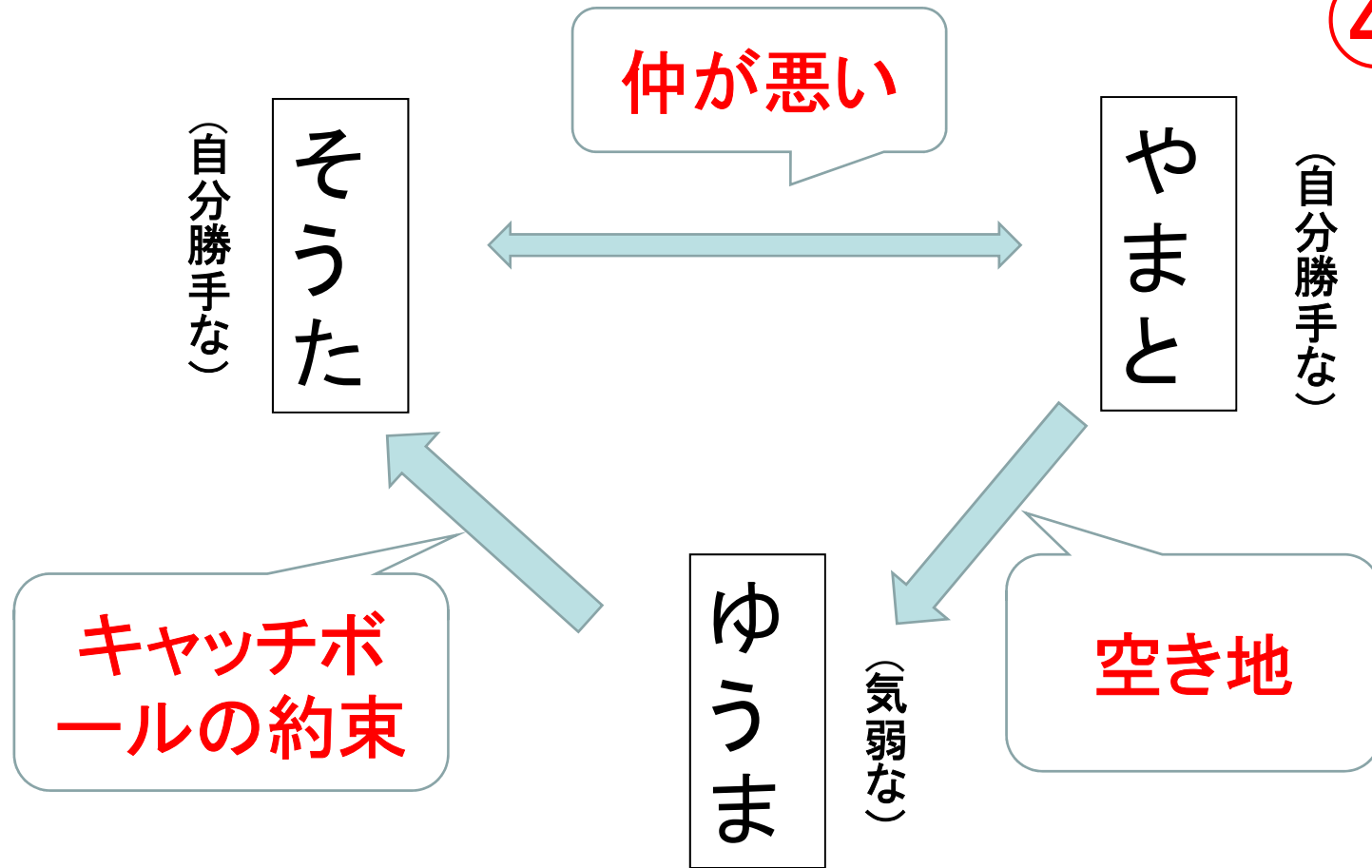
質問二 三人は、どんな子ですか？

答え…

質問三 ゆうまが、傍線のように元気がないのはどうしてですか？

答え…

④



(例) 話の見える化(図)

国語の読解力を育てる支援

理解がむづかしい場合、下記を子どもがする。

出来なければ支援者がして手本を示す。手本のヒントカードを準備しておく。

1. 問題を正しく音読する。
2. 大切な言葉、分かりにくい言葉、表現に印をつける。(問題文に書き込む、汚す)
自分で調べる。わからなければ、自分から質問する。
3. 場面を理解する。
主語－述語を探す。全体を「いつ、どこで、だれが、どうした」の5W1H構成でワークシートに書く。難しければ、段落毎に。それで難しい場合は文毎に。ワークシートに書けない時は支援者が一つずつ質問し、回答後に書く。
4. 文章どおりにロールプレイ(やりとり)をする。
5. 登場人物の気持ちを話し合って、考える。
心情語に傍線を引く。
6. 大切な言葉を書き出して図示する。
繰り返し出てくる言葉に注意する。
7. 答を書く。

接続詞

- ・ **文**のつながり、**段落**のつながりを接続詞で考える。

- ・ 接続詞の種類:

1; **順接** (だから)、2; **逆接** (しかし)、3; **並列** (また)、4; **添加** (そのうえ)、5; **選択** (または)、6; **補足** (なぜなら)、7; **話題転換** (ところで)、8; **対比** (一方)、9; **言い換え**、例示 (すなわち)

こそあど言葉

- ・連体詞の「この、その、あの、どの」が指し示す言葉(名詞)、文節、文、段落を探す。
- ・こそあど言葉も使い方が4種類ある。

注意：指示代名詞だけでないよ！

- 1) 名詞 : これ
- 2) 連体詞 : この本
- 3) 助詞 : こういう本
- 4) 形容動詞 : こんな本

文とは何か

「文」とは、**言葉をつづり合わせて**、事実や感想など、**まとまった内容を表した**ものである。

「文」とは、書き出しから**句点**「。」(「?」「!」)までの**ひと続きの言葉**です。

「何がどうする」・・・桜の花が咲く。

「**ウ行**」で終わる(**動詞**)

「何がどんなだ」・・・桜の花がきれい。

「**い**」で終わる(**形容詞**)

「何がなんだ」・・・花見客がにぎやかだ。

「**だ**」で終わる(**形容動詞**)

言葉の単位

- 1) **文章**・・・普通2つ以上の文からなる。最も大きな言葉の単位で、考えや気持ちを**言葉**によって表したものの**全体**をいう。
- 2) **文**・・・まとまった内容を表し、**句点で区切られたひと続きの言葉**をいう。
- 3) **文節**・・・「ネ」を補って区切ることができる。文を**意味のわかる範囲**でできるだけ短く区切った**言葉のまとまり**をいう。
- 4) **単語**・・・**意味が失われないところまで区切った言葉の単位**、意味をもつ最小の単位。

読解力の指導(短い文章)

1. 助詞の使い方
2. 心情語の使い方
3. 指示語の使い方
4. 接続語の使い方

1～4の言葉について、読み書きを学習する。

①動作化:仲間を分類し、名前を付けて口頭で発表する。答えをジェスチャーで示す。

②カードで視覚化:仲間を分類し、名前を書いて発表する。答えの選択肢を選ぶ。

読解力の指導(長い文章)

1. 音読する。
2. 文章の主語と述語を見つける。
3. 段落ごとにキーワードを取り出し、順に並べる。(視覚化)
4. 段落ごとにキーワードで不足部分を推測して埋める。(物語文では気持ちを書き足す)
5. 段落ごとにまとまりを作り、適当な名前(要旨)を付ける。
6. 要旨をまとめて作文する。

説明文の読解 (説明的文章: 中学)

1年	2年	3年	4年	5年	6年
(なんのはなし) (どんなようす) (どんなじゆんじよ) (文をつなぐことば) (だいじなところ)	(なんのはなし) (どんなじゆんじよ) (文をつなぐことば) (だいじなところ) (なんのまとまり)	(話題と内容) (組み立てとじゆんじよ) (文をつなぐことば) (さしめすことば) (だいじなところ) (まとまりのはたらき)	(話題と内容) (文をつなぐことば) (さしめすことば) (段落と要点) (段落の関係)	(話題と内容) (文をつなぐことば) (さし示すことば) (段落と要点) (構成と要旨)	(話題と内容) (文をつなぐことば) (さし示すことば) (段落と要点) (構成と要旨)
		指示語	接続語 構成問題		

どうわ・物語の読解(文学的文章: 中学)

1年	2年	3年	4年	5年	6年
(「だれ」が のことば) (「どうした」 のことば) (「なに」が のことば) (「いつ」の ことば) (「どこ」のこ とば)	(「だれ」が のことば) (「どうした」 のことば) (「何」がの ことば) (「いつ」の ことば) (「どこ」のこ とば)	(登場人物) (あらすじと 場面) (場面の様 子) (場面と様 子を表す言 い方)	(登場人物) (できごとと 場面) (場面の様 子) (場面と様 子を表す言 い方)	(場面の設 定) (場面の様 子) (場面と様 子を表す表 現)	(場面の設 定) (場面の様 子) (場面と様 子を表す表 現)
(どんなよう す) (どんな気も ち)	(どんなよう す) (どんな気も ち) (どんな人)	(人物の気 持ち) (せいかくや 人柄)	(人物の気 持ち) (気持ちの 変化) (せいかくや 人がら)	(人物の気 持ち) (気持ちの 変化) (人がらと 主題)	(人物の気 持ち) (気持ちの 変化) (人がらと 主題)

心情問題

主題問題

文字の読み書きの支援案

(ヒントカード作り)

- | | |
|----------------|-----|
| 1. ひらがなを読む | —5 |
| 2. ひらがなを書く | —26 |
| 3. 単語・語彙を増やす | —31 |
| 4. 漢字を書く | —38 |
| 5. 作文 | —44 |
| 6. 文章読解 | —52 |
| <u>7. ローマ字</u> | —67 |
| 8. 英語 | —73 |

n

wa	ra	ya	ma	ha	na	ta	sa	ka	a
○	ri	○	mi	hi	ni	ti	si	ki	i
○	ru	yu	mu	hu	nu	tu	su	ku	u
○	re	○	me	he	ne	te	se	ke	e
wo	ro	yo	mo	ho	no	to	so	ko	o

ローマ字をこえにだしてよみましょう。

	pa		ba	da	za	ga
	pi		bi	di	zi	gi
	pu		bu	du	zu	gu
	pe		be	de	ze	ge
	po		bo	do	zo	go

ローマ字をいっえにだしてよみましよう。

rya	mya	hya	nya	tya	sya	kya
ryu	myu	hyu	nyu	tyu	syu	kyu
ryo	myo	hyo	nyo	tyo	syo	kyo
	pya	bya			zya	gya
	pyu	byu			zyu	gyu
	pyo	byo			zyo	gyo

ローマ字をこえにだしてよみましょう。

ローマ字の場合 (アルファベット・マスター法)

1. 粘土で遊び、ローマ字を作る。ローマ字を棒を重ねて作る。
 2. 「ローマ字表」の見本どおり、文字を順番どおりに並べる。
 3. a-i-u-e-o順、「a-ka-sa-ta-na·ha-ma-ya-ra-wa·n」の順を手で押さえながら、一字ずつはっきりと言う。
 4. 子どもに文字を触らせ、「a」から順番にすべての文字を言わせる。
 5. 文字をばらして、「ローマ字表」を見ながら、文字を声に出しながら作る。
 6. 並べられない字や飛ばした字は、初めは「ローマ字表」を見せて、リズムを取って言った後、「この字はなに？、○後の字は？」などと聞く。慣れると表なしで。
 7. 間違いや戸惑った文字は、似ている点、違っている点を聞く。説明は「ローマ字表」を見ながら指差して行う。これも表を覚えると、見ずに行う。
- ～以上、「ローマ字表」の上で、正しく読めるようにする。

(アルファベット・マスター法、その後)

1. 周囲の**環境**、たとえば駅名等、の中から**ローマ字**を探し出して読み上げる。
2. 辞書の中から特定のローマ字のあるページを探し出す。
3. 本の中から特定のローマ字を**見つける**。
4. ファイル、電話帳、百科事典などから特定のローマ字を探す。
5. ローマ字と英語の違いを見分ける。
6. ローマ字を書いてみる。

文字の読み書きの支援案

(ヒントカード作り)

- | | |
|--------------|-----|
| 1. ひらがなを読む | —5 |
| 2. ひらがなを書く | —26 |
| 3. 単語・語彙を増やす | —31 |
| 4. 漢字を書く | —38 |
| 5. 作文 | —44 |
| 6. 文章読解 | —52 |
| 7. ローマ字 | —67 |
| <u>8. 英語</u> | —73 |

英語の指導 I . 序論

(奥村ら、Jpn.J.Learn.Disabilit.22:445、2013の抜粋)

- ・英語は個々のアルファベット(群)が音素と対応するため、音節(かな)または形態素や語(漢字)レベルで対応する日本語よりも細かい単位での音韻認識および文字と言語音の対応付けが要求される。
- ・英語は綴りと音素の対応関係が複雑かつ不規則で、1つの音素が複数の綴りに、あるいは1つの綴りが複数の音素に対応する。

英語の指導 I . 序論 2

代表的なsynthetic phonicsでは、
最にアルファベット(群)と音素の対応関係を提示する。

次に、単語を1字ずつ音素に変換し、音素をつなげて読む方法を指導する。

単語をつづるスペリングでは、単語の音声を音素に分解し、各音素に対応する文字を書くよう指導する。

Reading 読み: アルファベット → 音素 → 単語

Spelling 書き: アルファベット ← 音素 ← 単語

フォニックスの指導手順

1. アルファベットと音素の対応関係

アルファベットと単語のカードを見ながら、「アルファベットの名前、音素、その音素で始まる単語」の順で発音する。

文字と音素が**1対1対応**する**子音**と**短母音**に限定し、26文字のアルファベットについて作成した。(別表参照)

指導法 I . フォニックス

文字カード

単語カード

アルファベット → 音素 → 単語

h



/h/



hat

エイチ

ハツ

ハット

d



/d/



dog

ディ

デウ

ドッグ

手順: カードを見ながら、左から右へ読む。

アルファベット・音素・単語

文字	音素	単語		文字	音素	単語
a	/æ/ ア	apple		o	/a,o/ ア、オ	oil
b	/b/ ブ	bus		p	/p/ プ	pet
c	/k/ ク	car		q	/k/ ク	queen
d	/d/ ドウ	dog		r	/r/ ル	rat
e	/e/ エ	egg		s	/s/ ス	sit
f	/f/ フ	fish		t	/t/ トウ	ten
g	/g/ グ	go		u	/ʌ/ ア	up
h	/h/ ハ	hat		v	/v/ ヴィ	vest
i	/i/ イ	ink		w	/w/ ウ	wind
j	/dz/ ジュ	jam		x	/ks/ クス	box
k	/k/ ク	king		y	/j/ イ	yes
l	/l/ ル	leg		z	/z/ ズ	zoo
m	/m/ ム	man				
n	/n/ ヌ	net				

(カタカナは参考まで)

フォニックスの指導手順

3. スペリング

初め、**口頭提示の単語を、アルファベットカードを並べて答える**。1文字1音素(dog,ten)から。

やり方の子どもへの指示として、

①**単語にどのような音素が含まれているか聞くこと**

②**音素がわかったら、それに対応するカードを並べる**

並べることに慣れてきた後、**書き取り**を行う。

指導法Ⅱ.

ライムを単位とした読み書き指導

- ・ライムrhymeとは、**単音節語の母音と語尾子音**を合わせた単位である。例:teamでは、tが語頭子音、eaが母音、mが語尾子音で、eamがライムの綴りである。
- ・ライムを共有する単語の母音は**同じ読み方**をすることが多く、読みの**手がかり**となる。
- ・ライムは3~4文字であり、大きなまとまりで音声化でき、**効率的な読み**につながる。例:ライムakeに語頭子音をつけると、take,make,fakeなどの単語ができる。

Ⅱ. 2. 指導手順

1) 教材: ライムのパターン表

ライムとそれを持つ単語の一覧表(別紙)

長母音a,i,o,ee,ea,oo,ou,ar,orについて、母音の種類ごとに整理して、一覧表を作成した。

2) 読み

ライムの読み方を示し、復唱させた。その後、子音とライムをつなげて読ませた。1回に1つのライムにつき指導した。

3) スペリング

ライムの母音以外を虫食いにしたプリントで同じライムを繰り返し書いた。

ライムと単語(例)

母音	ライム	単語	ライム	単語
長母音 a /ei/	ake ame ase ave ate	make,take,cake,wake,lake name,same,game,came,frame base,case wave,save date,gate,late,hate,plate,skate	ape ade afe ane ale	tape,cape,grape made,wade,grade,trade safu lane,plane male,pale,sale,tale,kale,scale
長母音 i /ai/	ime ine ile ike ize	time,lime,smile mine,nine,sine,wine,line file,tile,mile,smile like,hike,bike,strike size	ipe ife ite ide ive	pipe,wipe,snipe life,wife,knife site side,hide,ride,slide,pride dive,five
長母音 o /ou/	ome one ole oke oze	home,dome tone,bone,cone,phone pole,hole coke,joke,smoke,stroke froze	ope ote ode ove	rope,hope,slope,scope note,vote mode,code stove
長母音 oo /u:/	ood oof ook ool oom	food,mood roof,proof spook cool,pool,school boom,room,zoom	oon oop oot ooth	moon,noon,spoon hoop,loop root booth,tooth
ou /au/	oud out oul ouch	loud,cloud,proud out,scout,shout,about foul ouch,couch,pouch	ouse ound ount outh	house,mouse,blouse bound,mound,sound,ground count,mount,account mouth,south

ライムと単語(例2)

母音	ライム	単語	ライム	単語
ee /i:/	ee een eed eep eek	bee, fee, tree, free, knee teen, green need, seed, weed, speed deep, keep, jeep, sleep, sheep week, seek, cheek, Greek	eef eel eet eech eeth	beef eel, feel, heel, peel, steel, wheel meet, feet, sweet, sheet, street speech teeth
ea /i:/	eam eap each ead eaf	team, beam, dream, cream cheap teach, beach, peach, bleach read, lead leaf	eat eak eal ean ea	meat, seat, heat, treat peak, leak, speak seal, meal, heal bean, mean, clean tea, sea, pea
ar /a:/	ar ard ark	bar, car, far, jar, scar, star card, hard, yard dark, mark, park, shark, apark	arm art arch	arm, farm, harm, charm, alarm cart, chart, part, tart, smart, start arch, march, starch
or /o:/	or ord ork	or, for cord, Ford, lord cork, fork, pork, New York	orm orn ort	form, storm born, corn, horn fort, port, sort, short, sport

総合考察

- ・whole word法による指導でなく、**フォニックス法とライム**による読み書きの指導を行い、**読みと綴り**の基本的な**関係性**を指導したところ、2事例では基本的なスキルを習得できた。
- ・英語学習には、①初期は**フォニックス**により文字と音素の対応関係を指導して**音韻意識**を形成する。②次に、**ライム**を単位とした指導で読み書きできる母音のパターンを増やし、複数の文字を**まとめて音声化**できる**単語**を増やすことが**適当**と考える。

本「はじめてのフォニックス①②」

(by ジュミック今井、Jリサーチ出版、2018)

1. alliteration(頭韻) 2. rhyming(脚韻)

Phonemic awareness(音素認識)の一つ。

・アリタレーション **alliteration(頭韻)**は、語頭が同じ音で始めるもの「語頭で韻を踏む」

・・・apple, angry, ant, alligator

・ライミング **rhyming(脚韻)**は、語尾が同じ音で終わるもの「語尾で韻を踏む」

・・・away, day, play

#フォニックス **phonics**は、「つづり字と音のルール」である。この学びの前に、アリタレーションとライミングを学ぶと読み書きの定着率が高まる。

アルファベット	アリタレーションの例
A, a	apple, angry, ant, alligator
B, b	busy, bear, baby, brown : buy, bag, book, brown
C, c	cute, cow, cut, carrot, cake, coffe
D, d	dance, deer, doll, diamond, donut, dragonfly
E, e	elf, egg, elevator, elephant
F, f	four, five, fork, fly, flower, fan
G, g	green, grass, glass : garden, grandma, grandpa, glad, go
H, h	Hi there, hamburger, hungry, happy : Hello. Horse, hippo
I, i	ink, in, insect, it, itchy
J, j	juice, jam, jello, jump, jacket
K, k	keen, kitten, kitchen
L, l	large, lemon, lamp, : long, lily, lion, lettuce
M, m	magic, monkey, mountain, mushroom : mango, melon, milk
N, n	nine, new, notebook : name, Nancy, nice
O, o	octopus, on, October, olive
P, p	pink, pineapple : panda, park, penguin, pond, peacock, pocket
Q, q	quick, question, queen, quiet
R, r	ride, rocket : rain, river, rock, rose, rabbit, rush
S, s	seven, star, small : swan, ski, smile, squirrel, swim
T, t	tall, table, taxi, tiger : time, ten, tomorrow
U, u	uncle, upstairs, up, umbrella
V, v	violin, volleyball, van, vegetable, vanilla
W, w	windy, winter : want, wash, walnut, watch, wolf, warm
X, x	ox, fox, box, mix
Y, y	yawn, yard, yes : yogurt, yummy, yam, yacht
Z, z	zero, zoo, zipper, zigzag, zebra

発音	ライム	単語	発音	ライム	単語
eis	ace ase	space, place vase, case	ik	ick	stick, brick, thick, tick
aek	ack	black, quack, track, back	aid	ide	wide, slide, side, pride
eik	ake eak	snake, lake break, steak	il	ill	grill, windmill, hill, still, fill
ein	ane ain	plane, crane, train, rain	aind	ind	mind, kind, behind
o:l	all	ball, wall, mall, call	ing	ing	sting, sing, spring, ring, king
aend	and	hand, stand, land, band	is-	ish	fish, wish, shellfish, jellyfish
aep	ap	nap, cap, map, gap	oud	oad	load, toad, road, unload
aet	at	cat, hat, fat, mat	ok	ock	sock, dock, clock, block, shock
i:ts-	each	peach, reach, teach, beach	og	og	dog, log, frog, jog, fog
i:t	eat	seat, eat, meat, heat, treat	ot	ot	cot, lot, hot, pot
i:p	eep	steep, jeep, sheep, deep, sleep	aus	ouse	mouse, blouse, house
el	ell L	tell, spell, bell, well L	u:n	oon	noon, spoon, balloon, moon
en	en	pen, hen, men, when	op	op	mop, hop, top, shop
est	est	rest, nest, west, vest, best	ak	uck	buck, duck, struck, luck
et	et	jet, net, vet, pet	ag	ug	ladybug, mug, slug, rug
ais	ice	mice, rice, slice, spice	an	un	sun, fun, run
ig	ig	pig, fig, big, wig	ank	unk	junk, trunk, skunk
ait	ight	bright, light, night, tight	at	ut	hut, nut, shut

効果的な指導方法

1. 多感覚アプローチ

- ①視覚・聴覚・触覚・運動覚など多感覚を通して教える
- ②聞く・話す・読む・書く、そして記憶を助けるさまざまな方法(語呂合わせなど)を通して学習させる
- ③新しい語音や文字は毎回1, 2個に限る
- ④色・絵・写真等視覚に訴える方法を最大限利用する
- ⑤講義でなく、五感をフル活用できるように指導する

2. 一つの教示を二通りの方法で提示する

口頭指示と共にジェスチャー、プリント、視覚情報を

3. 教示は短く簡潔に、そして繰り返す

簡単な構文で短く話し、体験を通して教える

児童が培うべきスキル

- ・予習で勉強の仕方を学ぶ。
- ・習う予定の単語のフラッシュカードを作り、単語の読み方と意味を暗記する。
- ・教科書に即した音声教材を視聴する。英単語や文章を覚えるためには、話す・聞く・読む・書くと様々な方法を通して繰り返し学ぶ。
- ・英文の文法構造を学ぶには、英文を紙に書き、それを単語に切り離し、それらを並び替えて正しい文にする練習をする。
- ・すべての学習に人より時間をかけ、反復し、辛抱強く毎日行う。・・・(私)そのためには内容の精選がいる？

参考図書

1) Overcoming Dyslexia

Sally Shaywitz, M.D. 著、2003

「読み書き障害のすべて」—頭はいいのに、
本が読めない—

訳：藤田あきよ、監修：加藤醇子、PHP研究
所、2006

2) 小池敏英・雲井未勸. 遊び活用型 読み
書き支援プログラム、図書文化、2013